



根こぶ病菌を
直接たたけ!

遊走子

休眠胞子

オラクルは、作物に感染する「遊走子」に直接作用。
だから、**土壌中の菌密度を低減**、病害を約50日間予防します。

根こぶ病・土壌病害用 **殺菌剤**

オラクル[®]
粉剤/顆粒水和剤

後藤名堂教授も推奨!

遊走子を直接たたいてくれる殺菌剤は、根こぶ病の防除に、非常に有効だと思います。

東京農業大学 後藤 逸男 名誉教授 (農学博士)

根こぶ病は難防除病害です。薬剤はあくまで総合的防除の一つで、単独では効果が不十分な場合があります。本剤は土壌の「酸性改良」や「輪作体系」、「排水の改善」などと組み合わせて使用してください。

*使用していない場合との比較において
※イラストはイメージです ©は日産化学(株)の登録商標

日産化学株式会社

根こぶ病を防ぐための3つの防除対策

1

土壌の酸性改良

根こぶ病菌は酸性の土壌を非常に好むため、pHを6.6以上にするとう病を抑えられます。

2

水はけを良くする

根こぶ病菌は水の流れや風によって広がります。このため、圃場の水はけを良くしておくことが大切です。

3

殺菌剤の使用

土壌中の菌密度が一定レベル以上になると、発病のリスクが高まります。**殺菌剤を使用し**、感染を抑えましょう。

※他に以下の方法も有効です。

- ・抵抗性品種の利用
- ・おとり作物
- ・他の作物との輪作
(ただし、輪作中の畑にナスナが発生すると根こぶ病菌はその根の中で増殖するため、ナスナの防除はしっかりと行ってください。)

根こぶ病が発生しにくい土壌を作り、
しっかりと菌量を低減させるのがポイント。

そこで...

根こぶ病菌を“直接殺菌”できる薬剤、
「オラクル」をオススメします。

オラクルは、感染の元となる遊走子を“直接殺菌する”という全く新しい作用性*を有しています。これにより、土壌中の菌密度を低減し、根こぶ病の感染リスクを減らすことができます。

オラクル[®]
粉剤/顆粒水和剤



パッケージイメージです。

苗感染に要注意
育苗トレイの洗浄
安全な育苗培土

オラクル粉剤使用上の注意点
混和時土壌水分の影響
土壌水分20%以下で混和が望ましい。

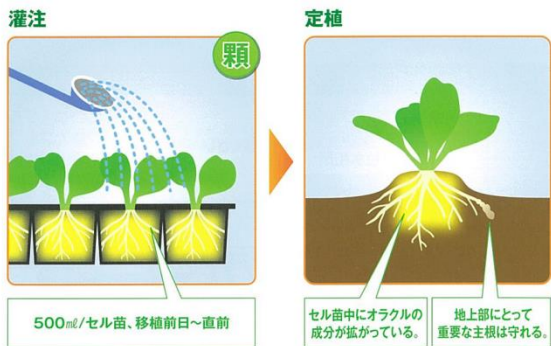


オススメ

1 発病が少ない圃場では

セル苗灌注処理

顆粒水和剤による定植前のセル苗灌注処理により、**低コストかつ省力的**に防除することができます。



■希釈倍率表

希釈倍率	希釈水量 (薬剤250g)	処理できる セル苗数
200倍	50ℓ	100枚
500倍	125ℓ	250枚

おすすめ

200倍～500倍に希釈

オススメ

3 発病が激しい圃場では

セル苗灌注処理 + 土壌全面処理後混和

定植前のセル苗灌注処理と、本圃での土壌全面処理後混和の体系処理により、より高い予防効果が期待できます。



注意 苗感染にご注意ください!

根こぶ病菌に汚染された土や水によって、育苗中(地床・セル苗)に発病することがあります。苗感染をしようとして、本圃で防除しても発病を止めることができませんのでご注意ください。



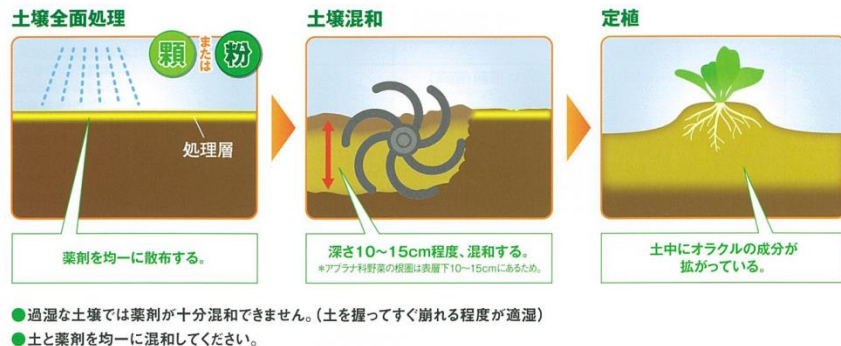
顆:顆粒水和剤 粉:粉剤

オススメ

2 発病が通常レベルの圃場では

土壌全面処理後混和

粉剤または顆粒水和剤による、本圃での土壌全面処理後混和をお勧めします。



使用方法

4

根こぶ病菌密度の高い圃場では、薬剤だけで防除するのは困難。そんな場合に、菌密度を下げ、発病リスクを抑えるのがこの技術です。



*オラクルと同時使用したおとり植物は、食用または動物飼料として用いないでください。

※注意: かつら、非結球あぶらな科葉菜類、キャベツ、フロロロー、カリフラワー、はくさいの播種前または定植前に2回土壌混和する場合は、使用間隔を2ヶ月程度あけてください。2ヶ月の使用間隔とは、おとり植物との同時使用から適用作物への処理までの間隔のことです。